

スパルタ帝国史

第一講：はじめに

1. 海外での研究

Hamilton・Cartledge：アゲシラオスを中心に

スパルタにおける党派対立（リュサンドロスとアゲシラオス：エウ
リュポンエウリュポン家とアギス家）

私的關係（ヘタイレイア *hetaireía* やフィリア *philia*）と公的關係
友情と庇護

スパルタ市民団の減少（*oliganthrōpía*）

ディオドロスやプルタルコスに関する優れた註釈

同時代のアテナイやボイオティア、ペルシアに関する研究

2. わが国におけるスパルタ史研究

（参照：古山「日本におけるスパルタ史研究」2003年）

1. 新村祐一郎・清永昭次

制度史研究

リュクルゴスの制度について研究

プルタルコス「リュクルゴス」の解釈

初期のスパルタ史

2. 古山正人

社会史への関心・

市民団が解体と減少（1050人に）していく時代（前4世紀）の社
会問題の研究：ヒュポメイオネス・モタケス・ネオダモデイスなど

（「ヒュポメイオネス考」1984年）

Lakonian Survey など近年の考古学調査を基に初期のスパルタの
領域的発展とペリオイコイの形成

（「ペリオイコイ研究の現状」2006年）

3. 中井義明

帝国研究

党派と政治的理念、私的關係、国家的利害の関連
外交と内政

4. スパルタ帝国史研究の現状

アテナイ中心主義・ギリシア本土中心主義

スパルタをアテナイと比較し、アテナイを典型、スパルタを特異と見
做す伝統→多様性への視点の脱落

スパルタの国家体制・社会に関心の集中

ギリシア・ポリスの政治的閉鎖性を強調→開放性への視点の欠如

エトノスの同時代性への無関心

4. 時代空間

前 404 年：ペロポネソス戦争終了

前 401 年：小キュロスの反乱

前 400 年：小アジア戦争（～前 394 年）

前 395 年：コリントス戦争（～前 386 年）

前 394 年：クニドスの海戦

前 386 年：アンタルキダスの平和（大王の平和）

前 378 年：ボイオティア戦争（～前 371 年）

前 371 年：レウクトラの戦い

前 370 年：ボイオティア軍のペロポネソス侵攻（～前 362 年：4次）

前 365 年：ペロポネソス同盟の解体

前 362 年：マンティネイアの戦い

5. 地理的距離と関心の度合い

(1) ペロポネソス半島とギリシア本土：覇権争奪の場

(スパルタ・アテナイ・コリントス・アルゴス・テーバイ)

(2) エーゲ海、イオニア海：制海権の場

(サモス・キオス・クニドス)

- (3) 小アジア、カルキディケ半島：外縁地域
(ミレトス・オリュントス)
- (4) マケドニア、ペルシア：外交的対立と同盟の相手
- (5) シケリア、イタリア：全くの外部世界
(シュラクサ)

6. 前5・4世紀のギリシア世界

前6世紀以前：隣保同盟 (amphiktioníā)

神殿中心：デルフォイ (アポロン神殿)・オリュンピア (ゼウス神殿)・デロス (アポロン神殿)・パンイオニオン (ミュカレ半島にあるポセイドン・ヘリコニオス神殿)・カラウレイア (トロイゼン近くのポセイドン神殿)
エトノス (種族) を基盤

前6～4世紀：シュンマキア (symmachíā)

ペロポネソス同盟・デロス同盟・ヘラス同盟など
ヘーゲモン型：同盟諸国に対する指導権を持つ同盟主の存在
ペロポネソス同盟：ラケダイモン人とその同盟諸国人
デロス同盟：アテナイ人とその同盟諸国人
期間限定型と恒久型
同盟機構：同盟会議 (synédriōn)
兵員・艦船の動員
金銭の拠出 (phóros 貢税：隷属の象徴と看做される)
財務官 (tamíās)・駐屯軍指揮官 (phrouárchos)・監督官 (harmostés)・連絡将校 (xenagoí)

前4世紀以降：連邦 (koinón) の隆盛

アルカディア連邦・ボイオティア連邦・アカイア連邦など
エトノスを単位
市民権の共通化 (isopoliteíā)・共有 (sympoliteíā)
各共同体からの代表により連邦会議 (sýnodos) を構成
軍事指揮官 (stratēgós) を選出

参考文献

- 概説 : P. Cartledge, *Spartan Reflections*, Berkley, 2001.
- Do, *Sparta and Lakonia: A regional History 1300 to 362 BC.*,
London & New York, 2002^{second}.
- Do, *The Spartans: The World of the Warrior-Heroes of Ancient
Greece*, New York, 2004.
- W. G. Forrest, *A History of Sparta 950-192 B.C.*, London, 1968.
- J. T. Hooker, *The ancient Spartans*, London, Toronto &
Melbourne, 1980.
- G. L. Huxley, *Early Sparta*, Shannon, 1962.
- A. H. M. Jones, *Sparta*, Oxford, 1968.
- L. Thomsen, *Sparta: Verfassungs- und Sozialgeschichte einer
Griechischen Polis*, Stuttgart & Weimar, 2003.
- K-W. Welwei, *Sparta: Aufstieg und Niedergang einer antiken
Großmacht*, Stuttgart, 2004.
- 研究書 : P. Cartledge, *Agesilaos and the Crisis of Sparta*, Baltimore,
1987.
- E. David, *Sparta between Empire and Revolution (404- 243 B.
C.): Internal Problems and their Impact on
Contemporary Greek Consciousness*, Salem & New
York, 1986.
- J. Dillery, *Xenophon and the History of his Times*, London &
New York, 1995.
- Th. J. Figueira(ed.), *Spartan Society*, Swansea, 2004.
- Ch. D. Hamilton, *Agesilaos and the Failure of Spartan
Hegemony*, Ithaca & London, 1991.
- 註釈書 : I. A. F. Bruce, *An Historical Commentary on the Hellenica
Oxyrhynchia*, Cambridge, 1967.
- D. R. Shipley, *A Commentary on Plutarch's Life of Agesilaos:*

Response to Sources in the Presentation of Character,
Oxford, 1997.

P. J. Stylianou, *A Historical Commentary on Diodorus Siculus
Book 15*, Oxford, 1998.

関連領域 : P. Briant, *Histoire de l'Empire perse*, Paris, 1996.

R. J. Buck, *Boiotia and the Boiotian League, 423-371 B. C.*,
Edmonton, 1994.

J. Buckler, *The Theban Hegemony, 371- 362 BC.*, Cambridge,
Massachusetts & London, 1980.

J. Buckler & H. Beck, *Central Greece and the Politics of Power
in the Fourth Century BC*, Cambridge, 2008.

W. Cavanach, J. Crouwel, R. W. V. Catling & G. Shipley,
*Continuity and Change in a Greek Rural Landscape:
The Laconia Survey*, Vol. I, London, 2002.; Vol. II,
London, 1996.

W. Cavanach, ch. Mee & P. James, *The Laconia Rural Sites
Project*, London, 2005.

M. H. Hansen, *Polis: An Introduction to the ancient Greek
City-State*, Oxford & New York, 2006.

Ch. P. Jones, *Kinship Diplomacy in the ancient World*,
Cambridge, Massachusetts & London, 1999.

D. Konstan, *Friendship in the classical World*, Cambridge,
1997.

B. S. Strauss, *Athens after the Peloponnesian War*, London &
Sydney, 1986.

清永昭次、「スパルタの都市国家」、『歴史教育』13 卷 4 号,
1965 年

新村祐一郎、『古代スパルタ史研究 - 古典古代への道』、岩波、
2000 年。

- 中井義明、『古代ギリシア史における帝国と都市 - ペルシア・アテナイ・スパルタ - 』、ミネルヴァ書房、2005年。
- 古山正人、「ヒュポメイオネス考 - スパルタ社会の変容の一側面」『新潟史学』17、1984年。
- 同、「モタケス、トロフィモイ、スパルティアタイのノトイ - スパルタの小社会集団」『歴史学研究』597、1-18頁、1989年。
- 同、「日本におけるスパルタ史研究--戦後の研究と現状」『国学院大学紀要』41、73-100頁、2003年。
- 同、「ペリオイコイ研究の現状」、『國學院大学紀要』44巻、163-189頁、2006年。
- W・G・フォレスト（丹藤浩二 訳）、『スパルタ史：紀元前九五〇 - 一九二年』、溪水社、1990年。
- 参考：アントニー・D・スミス（巢山靖司・高城和義 訳）、『ネイションとエスニシティ：歴史社会学的考察』、名古屋大学出版会、1999年。
- A・ネグリ／M・ハート（水嶋 一憲・酒井 隆史・浜 邦彦・吉田 俊実 訳）、『<帝国> - グローバル化の世界秩序とマルチチュードの可能性』、以文社、2003年。